

たまねぎのべと病に注意！

1 発生状況

- (1) 令和7年4月 16 日の予察巡回調査において、泉州地域(泉佐野市、岸和田市)のたまねぎほ場でべと病の発生を確認した。
- (2) 4月 17 日以降は、最高気温 25℃前後、最低気温 15℃前後(べと病の発病適温)の予報となっている。
- (3) 冬の低温により生育の遅れが見られるが、今後、収穫期にかけて罹病しやすくなるので注意する。

2 生態と発生条件

- (1) 11～12 月に、苗床や定植後のほ場などに残った病原菌から感染する。病原菌は感染した株内で越冬する。
- (2) 2～3月に見られる越冬罹病株では、葉が萎縮黄化し、つやがなくなってねじ曲がり、硬くなる。降雨後の高温・多湿時には、葉全体にかびが見られることがある。
- (3) 3～5月に、気温が 15℃前後で、降水量が多くなると越冬罹病株からの2次感染株が増え、急速にまん延する。2次感染株は、葉に淡黄緑色で楕円形の病斑が現れ、多湿時には霜状のかびが生じることがある(図1、2)。
- (4) 気温6～19℃で胞子を形成し、最適気温は 13～15℃である。また、気温 15℃前後、湿度 90%以上で胞子が発芽する。
- (5) 胞子は発病株から周辺 100m程度に飛散し、強風時はさらに広範囲に及ぶ場合がある(図3)。



図1 たまねぎべと病の発病株
(令和7年4月 16 日撮影)



図2 霜状のかび
(令和7年4月 16 日撮影)



図3 べと病菌

3 防除

- (1) 発病株は健全株への感染源となるため、速やかに抜き取り、集めてほ場外に持ち出し処分する。特に、毎年発生が見られるほ場では、よく見回り、早期発見・早期防除を実施する。
- (2) 予防効果のある薬剤は、発病前に散布することが重要である。表1を参考に薬剤散布を行う。
- (3) 発病株を見つけたら(1)を行うとともに、できるだけ早期に治療効果のある薬剤(表1)を散布する。なお治療効果のある薬剤でも、発病が広がってからでは十分な効果が発揮されないので注意する。

表 1 たまねぎ ベと病の防除薬剤例

登録は令和7年4月 18 日現在

薬 剤 名	FRAC	効果	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤 ※1	M3	予防	400～ 600 倍	収穫3日前まで	5回以内
ダコニール 1000 ※2	M5		1000 倍	収穫7日前まで	6回以内
ランマンフロアブル	21		2000 倍	収穫7日前まで	4回以内
ピシロックフロアブル ※3	U17		1000 倍	収穫前日まで	3回以内
ベトファイター顆粒水和剤 ※4 ※5	27、40	予防・ 治療	2000 倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールド MZ ※1	M3、4		500～ 1000 倍	収穫7日前まで	3回以内
カンパネラ水和剤・ ベネセット水和剤 ※1 ※4	M3、40		750～ 1000 倍	収穫7日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ※2 ※4	M5、40		1000 倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル ※5	27、11		2500 倍	収穫3日前まで	3回以内
ザンプロ DM フロアブル	45、40		1500～ 2000 倍	収穫7日前まで	3回以内

<各薬剤に含まれる成分の使用回数の制限に注意しましょう>

※1 ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールド MZ、カンパネラ水和剤・ベネセット水和剤に含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。

※2 ダコニール 1000、プロポーズ顆粒水和剤に含まれる成分 TPN の総使用回数は、6回以内。

※3 登録は「鱗茎類」

※4 ベトファイター顆粒水和剤、カンパネラ水和剤・ベネセット水和剤、プロポーズ顆粒水和剤に含まれる成分ベンチアバリカルブイソプロピルの総使用回数は、3回以内。

※5 ベトファイター顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブルに含まれる成分シモキサニルの総使用回数は、3回以内。